

平成20年度 教育研究業績書

氏名 東野 治之

最終学歴	1971年3月、大阪市立大学大学院 文学研究科 修士課程 修了			
取得学位	東京大学博士（文学）（論文博第11206号）			
所属学会	史学会（評議員）、木簡学会（評議員）、万葉学会、東方学会（評議員）、美術史学会、日本医史学会、和漢比較文学会、続日本紀研究会（顧問）、大阪歴史学会			
現在の専門分野	日本古代文化史			
研究課題	日本古代金石文の研究、日本古代寺院史の研究、日本古代対外交流の研究			
【研究上の特記事項】				
第62回毎日出版文化賞受賞、東京国立博物館の客員研究員として、同館所蔵の法隆寺献納宝物の調査に従事。				
【社会的活動】				
東京国立博物館客員研究員 奈良県立橿原考古学研究所指導研究員 奈良県文化財保護審議会委員 大阪市文化財保護審議会委員 (財)山口文化会館 滴翠美術館館長 東京国立博物館特別展「国宝薬師寺展」講演「薬師寺—飛鳥から平城へ」（4月） 奈良国立博物館特別展「法隆寺金堂展」講演「法隆寺金堂の金石文と聖徳太子」（6月） NHKハイビジョン特集「法隆寺」後編に出演（3月） TBS「唐招提寺金堂」特番に出演（3月）				
【学内活動】（学内職歴を含む）				
人事委員会委員、ネットワーク委員会委員				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
文献史料からみた薬師寺	単著	平成20年5月	『薬師寺白鳳伽藍の謎を解く』	天武朝に創建された薬師寺の平城京移転に関し、本尊が移座されたことを明らかにした。
『招提寺流記』資財部の復元的研究	単著	平成20年9月	『日本美術史の杜』	『招提寺流記』は、創建時の唐招提寺を知る史料として重要であるが、不完全にしか伝わっていない。その資財部分を関連史料を用いて復原した。
飛鳥時代木簡と上代語	単著	平成20年9月	『橿原考古学研究所論集』第十五	七世紀の木簡を解読する上で、当時の和語の理解が不可欠であることを、実例に即して論じた。
東大寺戒壇院の成立	単著	平成20年12月	『GBS論集』6号	鑑真の来日を機に創建された東大寺戒壇院の性格と、その機能の変化を、奈良時代後半の政情と関連付けて論じた。
（その他）				
阿修羅の表情	単著、共著の別	平成21年2月	『図書』720号	興福寺阿修羅像の造像背景を光明皇后の信仰から解明し、随想風にまとめた。